

子どもが住みよい地域にしたい！



「こずっち会議」

@増尾

発行) 柏市役所 地域づくり推進部 地域支援課 問合せ: 04-7167-1126 mail: info-chksh@city.kashiwa.chiba.jp

■日時 令和元年12月8日(日)午後1時から3時

■場所 増尾近隣センター 会議室A



意見交換

A~Dの四つのテーブルに分かれて、意見交換をしました。



リラックスしながら

飲み物やお菓子も用意されて、和やかに話し合えました。



意見の見える化

模造紙に参加者の意見を貼ることで、意見の見える化しました。



発表

最後に、四つのグループから、話し合いの内容を報告して頂きました。

これから、私たちの住むまちを良くしていくには、「みんなが顔見知りになることからが第一歩じゃない？」と思い、そのきっかけづくりとして、ふるさと協議会と子育て世代の方々に「子どもが住みよい地域にするには」というテーマで意見交換をしました！当日はたくさんの笑顔でたくさんのおしゃべりをして、お互いがどんな考えを持っているのかを知ることができました！
くわしくは裏面をご覧ください！



「こずっち」とは、「子(どもが)住(みよい)地(域)」の愛称です。

テーマ 子どもが住みよい地域にするには

■出席者

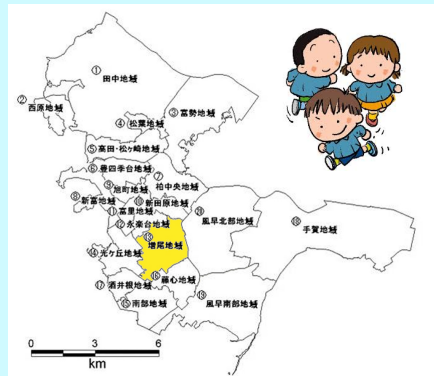
増尾地域ふるさと協議会 10名
増尾地域に住む若い世代 10名

@増尾



ふるさと協議会とは

町会等は、わたしたちの生活に最も身近な活動団体です。柏市独自の「ふるさと協議会」は、町会等の枠を超えた地域コミュニティづくりの中心的な担い手として期待されています。



いまやっていること



・おばけ屋敷は子どもがスタッフ。とても人気があり、自分の役割があると喜んでくれる。→行事ごとにどこなら子どもが担えるか考えると良いと思う。



- ・「つちのこ」は子どもたちからの反響も大きい。楽しんでいる。つちのこがあって良かった。
- ・増尾地域はふるさと協議会ががんばっているので安心できる。学校と地域のつながりもある。
- ・増尾独自のスタンプカードで、ふるさと協議会を知った。
- ・負担を軽くする。短時間で手伝ったり、テントを軽いものにした。

参加して感じたこと

【熟年世代】

- ・若い世代の方の時間配分等の考え方がわかり良かった。
- ・忙しいお母さんの現状がわかりました。
- ・我が息子と会話しているようで楽しかった。
- ・ふる協も若い世代をできるだけ前に出した運営になると良い。同じ役員が長期政権を握らないことも大事！



【若い世代】

- ・学校の先生も加わっての意見交換ができると良いと思った。
- ・今まで曖昧だった思いを具体的に考えられた。

これからやれたらいいなと思うこと

- ・ふる協・青少協・社協・学校など情報交換できる場ほしい。どんなコラボレーションができるかな。
- ・三世代が関われる行事を増やしたい。
- ・若い世代の方々の考えが反映できるようにしていきたい。
- ・忙しい父母はどうやったら楽しんでもらえるか。
- ・学校が地域に協力する姿勢も必要。
- ・今日参加していないお母さんたちにも地域のことをもっと知ってもらいたい。
- ・小さい子が遊べる場所や、金網で囲ってあるようなボール遊びができる場所があるとよい。
- ・きつね山をみんなが集まれる場所にしようと計画中。
- ・子どもがチラシを作ったら回覧板をみってくれるかも。
- ・お母さんたちが参加しやすいように組織のスリム化も大切。
- ・同じようなイベントが重なっているときがある。例えば、中学校でまとめてイベントを開催できるとよい。
- ・他の地域の方々や交流都市の方々とも意見交換してみたい→新しいアイデアを得られたり、知り合いが増えたり。
- ・やっぱり若い人にはもっと出てきてほしい！



そのほかの地域で行なわれた
こすっち会議はこちらから→

